



旭川医科大学医学部生化学講座

川辺 淳一

2019年6月から本学の第二生化学講座の主任教授を拝命し、また、9月には第一生化学講座を統合して、本学の基礎医学講座の一角として研究と教育活動を主宰させていただいております。私自身、本学を卒業後、循環器内科医として、また、同時に大学院に入学して医学研究者のキャリアを開始し、大学院卒業後は、十年近く米国のコロンビア大学、ハーバード大学、ニュージャージー大学のスタッフとして研究生生活を送りました。人生において貴重な三十代を、米国の優れた研究者らと共に過ごし研究者としての土台を築けたのは、私としては幸いでした。

久しぶりに戻った日本の大学では、独立法人化や研修医制度など、大学や医師教育の立て続けの「改革」の真ただ中で、大きな混乱が日本中の大学で起こっております。そんな状況の中、私にとって、母校のアカデミアを立て直すことが帰国後の魅力的な挑戦に思えました。これまでの心臓を標的とした心不全研究から、まったく新しい研究を開始することにしました。“多細胞生物が維持する上で本質的なものとは？”の自問の中で、新しい研究標的として「毛細血管」に着目しました。新しい視点からこそ難問を解決していくヒントが得られる、臓器や疾患を超えた多方面の研究展開が期待できる、そんな狙いをもつての、文字通りの裸一貫からの再出発でした。

幸い、古巣の内科学講座で十年近く心血管再生医療開発講座という活動の場所をいただき、様々な講座から多くの大学院生が集い、他大学との共同研究やベンチャー会社を設立しつつ、毛細血管研究の基盤を構築してきました。これまで、毛細血管形成に関わる新規因子や、毛細血管を再生する幹細胞を発見することができ、これらの知見を幹として、再生医療にむけたTRを含めた多くのプロジェクトが育っています。特に、臓器再生に本質的な「毛細血管」研究を行っていく中で、「再生」と表裏にある「老化」に関する重要な課題解決につながる糸口も見えてきました。現在、虚血性疾患や動脈硬化などに加えて、糖尿病、サルコペニア、慢性炎症をテーマとした研究プロジェクトが展開しています。

この研究展開のタイミングで、臨床・基礎講座間の、より大きな連携活動の必要性を大学に訴え、これまでの心血管再生医療開発講座、そして本講座に活動の場所を広げました。ここから、母校のアカデミアを立て直すという夢の第二幕となります。これまで順調に育ってきた人材に加え、基礎講座の専属スタッフも加わり、最北の医科大学から、高齢化社会に横たわる医療・医学上の難問の一つでも解決の糸口を発信できればと仲間と一緒に夢んでいます。



生化学講座のスタッフ



心血管再生先端医療開発講座のスタッフと